

# ビッグウェーブがやってきた



笠松町住民課長

赤塚 暢子

あけましておめでとうございます。令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大防止が叫ばれ、生活スタイルは大きく変化することになりました。令和3年は新型コロナウイルス感染症に有効かつ安全なワクチンが開発され多くの方に投与が可能となり、気持ちも晴れ晴れと世界を自由に往来できる世の中になってほしいと願うばかりです。

さて、「随想」への寄稿。思い返せば令和2年1月に寄稿の依頼を受けました。「先のことわからないよね」と安気に構えること数か月、なかなか綴る気持ちになれず「まだ大丈夫」と自分に言い聞かせていました。そんな私の気持ちをよそに時は流れ、霜が降りる季節が近づいたある日のこと、私あてに一本の電話が。「お世話になります。国保連です」そう、「随想」寄稿依頼の電話でした。「いよいよ書かなきゃ」と思いながらマス目は一字たりとも埋まることはありませんでした。他市町村課長の皆さんが書かれた内容を参考にしようかと改めて「随想」を読ませていただきました。「皆すごいな。よく書けるな」と読みふけるだけで、相変わらず綴れない時を過ごしたことは言うまでもありません。

国保連合会担当の方に提案していただいた内容は私にはどれをとっても文字にし難く、そうは言っても時が止まることは無く原稿の締切り日は迫ってきました。悩むこと半月。閃いた内容は今の気持ちを綴ることでした。

国はデジタル社会の早期実現に向け、その基

盤としてマイナンバーの利活用の促進に拍車をかけています。私にとっては負担の大きい苦手分野です。けれど、時代の移り変わりの大波は容赦なく襲ってきます。その大波も数年後には何事もなかったかのように穏やかな波に戻ります。今なおフィーチャーフォンを愛好する私にとってデジタルの波は月日を重ねるほど大きく荒れ、いずれデジタル難民になるのではないかと危機すら感じ始めています。

若さと勢いだけで勤務していた頃の仲間に言われた言葉を思い出すことがあります。「今できることを一生懸命頑張れ。今描いている夢を諦めるな」今がその時なのかもしれません。デジタルという大波を華麗に乗りこなし楽しむという夢の実現に向け、今できることを精一杯頑張らないとね。まずはスマートフォンに変える勇氣を持つことから始めてみよう。さあ、いよいよ重い腰をあげる時がやってきた！

話は変わり来年度の「岐阜の国保」休刊が決まりました。国保連合会の皆さまには340号にわたり編集にご尽力いただきましたこと大変感謝いたします。岐阜県下の状況や市町村事務に有益な情報をわかりやすく編集し、提供していただきました。心残りがあるとすれば、休刊前最後の「随想」が私で良かったのかしらというところくらいであろうと想像します。

時を経て、より充実した「岐阜の国保」が復刊されることを祈念し、そっとパソコンを閉じます。